

学校にいけない・いかない子をもつ

親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど、それを目指す一端となることを願って開催しています（事務局）

— 令和4年5月・6月(臨時会)に参加された保護者の声をお届けします —

「高3になり進学したいと言い出し、塾へ行き出した」

スイッチはどこ？

「本人が通信の高校を選択し、中学卒業近くから、あれしたいこれしたいと言い出した。」

「給食の時だけはクラスのみさんと食べて、あとは別室で過ごしている。」

春は変化の時ですが、参加している皆さんのお子さんにも変化がみられるようになりました。このスイッチの切り替えは一体何がきっかけなのか。参加している親御さんたちはそれが知りたくてなりません。

スイッチのひとつは、「進学」という節目はあるようです。子どもさん自身も環境が変わることへの期待が一定あるのかも知れません。子どもさん自身が自分の将来についてじっくりと考えられるかどうか、そのスイッチが入るタイミングに向けてどう支えていけばよいのか、参加者の皆さんは、それぞれの経験談を聞きながら考えているようでした。

また、給食の時はクラスメイトと一緒にと限定的にでも同じ空間で過ごせることについても皆さんが肯定的に捉えられていました。子どもさんの中には、「行くなら1日」と決めてしまうタイプの子もいるようで、その辺のチカラ加減がとても難しいようです。

「学校の先生には、行けていない子にも学校に来ている子と同じように大事にしていると伝えてほしい。」

この言葉がとても印象に残っています。自分自身の存在を認めてくれる・受け入れてくれる人がいるだけで救われることがあります。学校にいけずに、外部とのつながりが薄れている子どもたちにとって先生がこんな言葉をかけてくれるとその時はリアクションできなくても、心のどこかに残るんじゃないかと思いました。

子どもさんが学校を休んでいることで、親御さんたちはさまざまな思いを抱えています。

- ・毎回言いに行ったら、この親また言いに来たなと思われるんじゃないか。
- ・小さいことを学校に言いにくい。でも、小さいことが原因で行けなくなる。
- ・先生は何かあったら言ってと言ってくれるけど、言うパワーもなくなってきた。
- ・個別にいろんな先生に言わなくては共有されないから疲れてしまう。

どの気持ちも分かる気がするんです。

同朋大学
川乗准教授の

ワンポイント
アドバイス

学校に対する親御さんの気持ちはよく分かります。もちろん、毎回伝える内容がクレームであれば学校側も困惑しますが、日々の子どもの様子を伝えると考えるとどうでしょうか？その上で先生にアドバイスをもらいたいと伝えれば、先生方も共に解決するという意識になり、分からないことは他の先生に相談もしてくれると思います。

残念ながら不登校は今日明日でどうこうなるものではありません。スイッチは学期の代わり目にあるぐらいに考えると親御さんの気持ちも変わっていくかも知れませんね。

学校へいけない・いかない子をもつ親同士がつながる場

奇数月の第3日曜日 午後1時30分～3時頃

AGALA2階(箕島本町商店街東入口付近) 駐車場有:AGALA東隣

事務局:有田市社会福祉協議会(宮本) TEL 0737-88-2750

mail aridashi.shakyo@gmail.com



新規参加
申込フォーム

※スマホから読み
とってください。